

株主の皆様へ

第157期 中間報告書

2020年4月1日～2020年9月30日

株式会社トクヤマ



株主の皆様には、平素より格別の
ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当上半期の業績は、前年度に引き
続き新型コロナウイルス感染症拡大
による影響から主力製品を中心に国
内販売が軟調に推移したこと、欧米
のロックダウンにより歯科器材など
の輸出製品の販売数量が減少したこ
と等により、前年同期比で売上高は
6%減の1,432億円、営業利益は11
%減の129億円となりました。

5年間の中期経営計画も残り半年
となりましたが、2021年度から始ま

る次期中期経営計画での成長をさらに加速するために、上期はICT分野では山口県柳井市に「先端技術事業化センター」の開設によるパワー半導体モジュール向けの窒化ケイ素の早期事業化を、台湾では電子工業用高純度イソプロピルアルコールの製造・販売を目的に台湾塑膠工業股份有限公司 (Formosa Plastics Corporation) と合併会社設立を決定しました。10月以降はヘルスケア分野では、欧米で高評価を得たトクヤマデンタルのコンポジットレジン「オムニクロマ」の国内販売をいよいよ開始するとともに、ピオチンなどヘルスケア製品の新品の上市に向けスピードアップに努めます。

当社の最重要課題であるCO₂対策につきましては、競争力の源泉である石炭火力発電所の扱いが焦点になります。次期中期経営計画の策定に合わせて2050年のありたい姿を描いた上で、今後10年のCO₂削減目標を設定し、目標達成のためのロードマップを策定いたします。

新型コロナウイルスの影響により上半期が減益となったものの、通期では期首予想並みの営業利益280億円を予定します。利益配分としましては、減益となりましたが株主の皆様への継続的な安定配当を基本とし、中間配当を予定どおり前年並みの35円として実施いたします。期末配当も前年並みの35円、年間70円を予定します。

今後も株主の皆様のご期待にお応えするよう全力で取り組んでまいりますので、一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2020年11月

株式会社トクヤマ

代表取締役 社長執行役員

横田 浩

会社概要 [2020年9月30日現在]

商号	株式会社トクヤマ (英文表記: Tokuyama Corporation)
創立	1918年2月16日
本社	〒745-8648 山口県周南市御影町1-1 TEL.0834-34-2000
資本金	100億円
ホームページ	https://www.tokuyama.co.jp/

役員体制 [2020年9月30日現在]

取締役

代表取締役	横田 浩	化成品、セメント、 ライフアメニティー、 監査室 担当
	安達 秀樹	徳山製造所、 鹿島工場環境安全・ 生産技術 担当
取締役	杉村 英男	経営企画、CSR、 総務人事、購買・物流、 秘書室 担当
	野村 博	特殊品 担当
	岩崎 史哲	研究開発 担当
取締役 (監査等委員)	宮本 陽司	(監査等委員長)
	加藤 慎	(社外取締役)
	河盛 裕三	(社外取締役)
	松本 直樹	(社外取締役)

執行役員

社長執行役員	横田 浩	
専務執行役員	安達 秀樹	徳山製造所長
常務執行役員	杉山 良	ライフアメニティー部門長
	杉村 英男	経営企画本部長 兼 購買・物流部門長
	野村 博	特殊品部門長
	岩崎 史哲	研究開発部門長 兼 つくば研究所長
執行役員	松屋 和夫	CSR推進室長
	谷口 隆英	セメント部門長
	樽谷 豊	化成品部門長
	藤本 浩	総務人事部門長 兼 人事グループリーダー
	田村 直樹	ライフアメニティー部門 副部門長

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人・ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 [郵便物送付先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 [電話照会先]0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL (https://www.tokuyama.co.jp/)
上場取引所	東京証券取引所
証券コード	4043

株式に関する手続きについて

特別口座に記録された株式

特別口座から一般口座への振替請求
単元未満株式の買取(買増)請求
住所・氏名等のご変更
特別口座の残高照会
配当金の受領方法の指定*
郵送物等の発送と返戻に関するご照会
支払期間経過後の配当金に関するご照会
株式事務に関する一般的なお問い合わせ

お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
0120-232-711 (通話料無料)

[手続き書類のご請求方法]
インターネットによるダウンロード
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

*特別口座に記録された株式をご所有の株
主様は、配当金の受領方法として株式数
比例配分方式はご選択いただけません。

証券会社等の口座に記録された株式

郵送物等の発送と返戻に関するご照会
支払期間経過後の配当金に関するご照会
株式事務に関する一般的なお問い合わせ

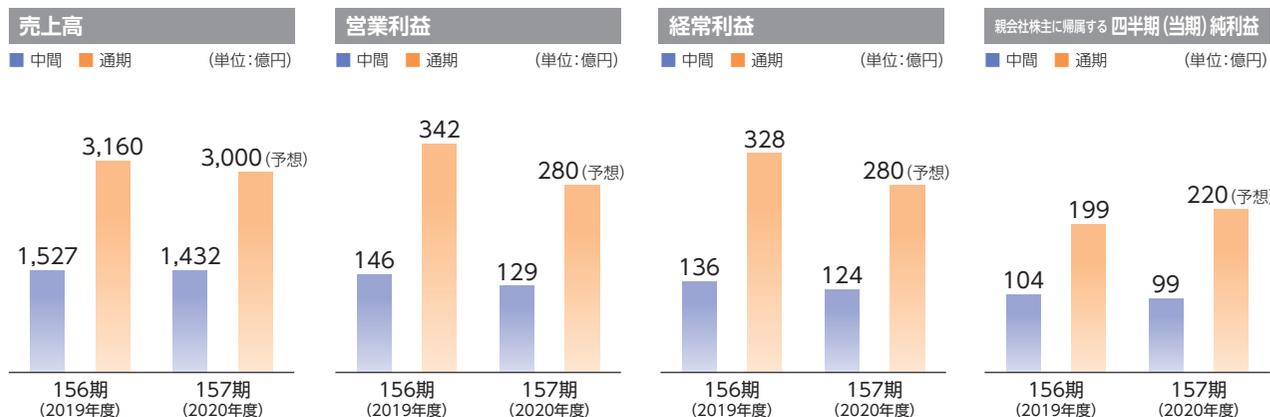
お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
0120-232-711 (通話料無料)

上記以外のお手続き、ご照会等は、口座
を開設されている証券会社等にお問い合わせ
ください。

業績の概況 【2020年4月1日から2020年9月30日まで】

連結



売上高 半導体関連製品は販売が堅調に推移しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から苛性ソーダの国内の販売数量が減少したこと、石油化学製品の販売価格が軟調に推移したこと、及び歯科器材などの欧米向け輸出数量が減少したこと等により、前年同期より94億60百万円減少し、1,432億89百万円（前年同期比6.2%減）となりました。

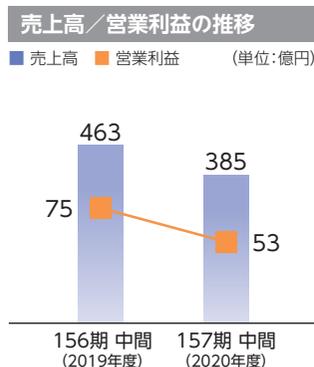
営業利益 原燃料コストの減少はあったものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から苛性ソーダの国内の販売数量が減少したこと、及び石油化学製品の販売価格が軟調に推移したこと等により、前年同期より16億70百万円減少し、129億41百万円（前年同期比11.4%減）となりました。

経常利益 営業外損益は、前年同期より5億25百万円改善しました。以上の結果、経常利益は11億45百万円減少し、124億98百万円（前年同期比8.4%減）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益 特別損益は、前年同期より1億48百万円悪化しました。以上の結果、税金等調整前四半期純利益は、前年同期より12億93百万円減少し、121億17百万円（前年同期比9.6%減）となりました。応分の税金費用を加味した四半期純利益は、前年同期より3億76百万円減少し、103億40百万円（前年同期比3.5%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期より4億6百万円減少し、99億94百万円（前年同期比3.9%減）となりました。

セグメント別の概況 【2020年4月1日から2020年9月30日まで】

化成系



苛性ソーダは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から国内の販売数量が減少したこと、及び海外市況が下落したことにより、減益となりました。塩化ビニルモノマーは、国産ナフサの価格下落による製造コストの

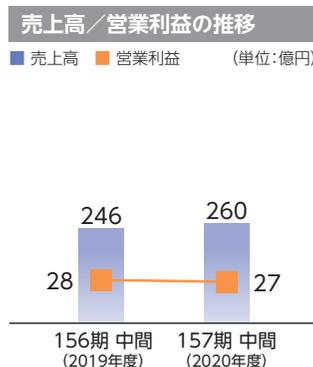
低減はあったものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から海外市況が下落したことにより、減益となりました。

塩化ビニル樹脂は、海外での需要が堅調だったこと、及び原料価格と販売価格のスプレッドの維持に努めたことにより、前年同期並みの業績となりました。

ソーダ灰は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から国内の販売数量が減少し、減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は385億27百万円（前年同期比16.9%減）、営業利益は53億86百万円（前年同期比28.3%減）で減収減益となりました。

特殊品



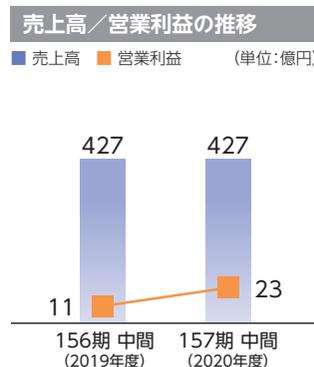
半導体向けの多結晶シリコンは、5Gの導入やリモートワークの増加を背景に販売が堅調に推移し、前年同期並みの業績となりました。

電子工業用高純度薬品は、海外向けを中心として販売数量が増加し、増益となりました。

乾式シリカは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等から販売数量が減少し、減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は260億52百万円（前年同期比5.9%増）、営業利益は27億46百万円（前年同期比2.4%減）で増収減益となりました。

セメント



セメントは、新型コロナウイルス感染症拡大の国内出荷への影響が限定的だったこと、及び原料価格の下落で製造コストが低減したことにより、増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は427億26百万円（前年同期比0.0%増）、営業利益は23億35百万円（前年同期比96.9%増）で増収増益となりました。

ライフアメニティー



プラスチックレンズ関連材料は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からメガネレンズ用フォトクロミック材料の欧米向け輸出数量が減少し、減益となりました。

微多孔質フィルムは、紙おむつなどのサニタリー用品向けの需要が堅調に推移し、増益となりました。

ポリオレフィンフィルムは、販売数量は軟調に推移したものの、原料価格と販売価格のスプレッドを改善できたことにより、増益となりました。

歯科器材は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から欧米向け輸出数量が減少し、減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は249億45百万円（前年同期比10.0%減）、営業利益は8億23百万円（前年同期比47.3%減）で減収減益となりました。